Case 07

食を通して人が集い 気軽に語らう憩いの場に。

定年退職をきっかけに、故郷・八戸に暮らす高齢の母を介護するため U ターン。第二の人生で始めたのは、ご近所さんが語らう憩いの食堂。

U ターン

八戸市→埼玉県→八戸市

八重倉 幸子さん

まちの茶屋
しゃべるばあ～
（飲食・惣菜）
2021 年 2 月創業

定年退職のその先

八戸市の郊外、国宝や重要文化財が所蔵されている櫛引八幡宮近くにある「まちの茶屋しゃべるばあ～」では、朝カレーとランチ、惣菜の販売を行っている。メニューは懐かしい郷土料理から家庭料理、洋食や中華まで多種多様。お客さんの意見を取り入れて新しいメニューも開発する。

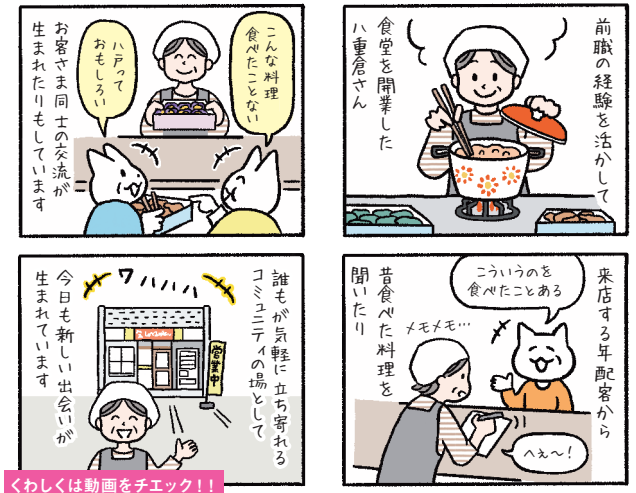
店主の八重倉幸子さんは大手食品化学メーカーに勤め、調味料・メニュー開発に携わってきた。調理師免許や食育インストラクターなど、食に関わるさまざまな資格を持つ。U ターンを決めたのは定年退職を迎えた年。これからは地元・八戸にいる高齢の母のそばで過ごそうと考えた。東京・有楽町にある青森暮らしサポートセンター（あおぐら）を訪ねて情報収集をしていた八重倉さんは、八戸の U ターンセミナーに参加。その場で出会った八戸商工会議所のスタッフに創業について相談した。

地に足のついた創業サポート

「当初は山遊びの施設をやりたいなと思っていたけど、今までの経験を活かした方がいいとアドバイスを受けた。続けられる事業計画を立てなさいって、支援担当者は親身になってくれる分、厳しいのよ」

相談の結果、長く身を置いた食のジャンルでの創業になった。飲食店をやるならと集客が見込める立地を勧められたが、移住の目的には高齢の母を支えることもあったので、店舗は実家の近くと決めていた。創業支援の過程で経理やマーケティングの手法も教わり、SNS での情報発信やリサーチなどを積み重ねて営業に反映させている。

誰かの役に立ちたい



くわしくは動画をチェック！！

店から 2 キロほど離れた場所にかつてあった櫛引城。少しでも地元が盛り上がる話題になればと大学教授に監修してもらい、「御城印」を発行している

八重倉さんの創業まで

- 2019 年 4 月 ▶ 定年退職
- 8 月 ▶「あおぐら」であおもり移住倶楽部に入会
- 2020 年 7 月 ▶ 店舗物件を決定
- 8 月 ▶ 八戸商工会議所に相談
- **2021 年 2 月 ▶ まちの茶屋 しゃべるばあ～創業**

支援機関 担当からの一言

生まれ育った頃のような活気のあった街を戻したいと、地域の活性化につながるような店づくりという思いを理解しながら、1 日の集客数をより慎重に検討し、創業計画を進めました。料理の種類の豊富さを強みとして、地域に八重倉さんの創業まで愛されるお店を目指してもらいたいと思っています。

ご近所の交流が生まれる場所に

店がある八幡地区は、かつて多くの商店が軒を連ね買い物客で賑わっていたが、今は数が減って歩く人もまばら。高齢者は買い物のために遠くまで出なくてはならず、ご近所同士の交流は希薄になりつつある。「しゃべるばあ～」が賑わいの創出につながり、地域の活性化の一助となればと八重倉さん。その時期旬の食を大切にし、四季を感じる郷土料理を楽しめば会話に花が咲く。ふらっと入ってきた若者が料理を口にして、こんなの食べたことがないと感動してくれたこともあった。

「デパートのおせち料理と地元の正月料理は違うじゃない。郷土料理はお年寄りが懐かしがってくれるし、若い人が伝統食に触れる機会になる」

店が人をつなぎ、食文化を伝える場所になっている。それだけではない。八重倉さん自身が U ターンした後、生まれた場所や歴史をもっと知りたいと思うようになった。地域の活動に参加したり応援したりするようになる。櫛引城の御城印の委託販売もその一つ。「親の介護のために帰ったとは思っていない。自分のために帰ってきた」と、第二の人生を故郷・八戸で始めたばかりだ。

Information

まちの茶屋 しゃべるばあ～

八戸市八幡字五日町 22-3